

青少年補導センター東信4市連絡会議 8月25日(木) オンライン研修から

東信4市(東御・小諸・佐久・上田) 青少年補導センターの連絡会がオンラインで開催され、各市が抱える課題について情報交換が行われました。

研修として「子どものサインが見えますか?」と題し、信州大学 教育学系 准教授 茅野 理恵 先生に講演をいただきました。内容の一部を紹介します。

先輩の一言は
今でも常に私の中に
存在し続けています



》》 大人があきらめずに行うべき 子どもへのアプローチ

- ◎ 心配すること
- ◎ かかわること
- ◎ 気にかけること
- ◎ 声をかけること
⇒どんな思いで声をかけるかとても重要
- ◎ かけがえのない存在意識
⇒子どもは実感することで安定する
- ◎ 自己肯定感の醸成
- ◎ SOS の出し方
⇒大人には SOS を感じられる感性が必要
- ◎ 正論だけでは子どもの安心につながらない
⇒子どものストレス軽減を優先に考える
- ◎ 安全基地を確保
⇒安定(安心)していただける家・場所が大切
情動焦点(一緒に考える) > 問題解決

》》 ゲーム障害の始まりは、自己効力感 (ランクアップ・アイテムゲット体験)

⇒ゲーム外で“自己効力感”を得られる環境を

》》 子ども 6人に1人がうつ症状

うつ症状の子どもの94%が「助けが必要」と感じている

- ・・・しかし相談した(出来た)のはそのうちの60%
⇒子どもに接するきっかけ(アプローチ)づくり
聞いてあげることが安心(感)につながる
△やりたいこと・好きなことでもストレスを感じる
ことが有る*

講師紹介

千葉県出身。信州大学教育学部卒業。専門は学校心理学。大学生生活の始まりは“こまくさ寮”(松本市)。たくさんの友人に刺激をもらい、やりたいことにどんどん挑戦する学生生活を送る。県内の中学校にて教諭として勤務の後、筑波大学大学院教育研究科へ進学。大学院修了後、小中高のスクールカウンセラー、教育センター教育相談員などとして、子ども・教師保護者の支援に従事。2012年信州大学総合健康安全センターカウンセラー着任。2015年より現職。プライベートでは、長男高校3年生、次男中学3年生、長女中学1年生の3児の母としてまだまだ子育ての真っ最中。

<https://soar-rd.shinshu-u.ac.jp/profile/ia.vhDpbmkF.html>

》》 2種類のストレス反応

- 精神反応...判断はとても難しい(*)
 - 肉体反応...理性でのコントロール不能
⇒ストレスは、
 - ・ 安心(感)・安全(感)な生活
 - ・ 心の絆
 - ・ 気持ちを表現すること
等々で徐々に治まる
- × 叱咤激励は逆効果

(具体的アプローチ)

- ◎ こまめな声かけ・会話 (安心な生活)
- ◎ 遊びや趣味の共同作業 (心の絆)
- ◎ 「感情の社会化」プロセス (気持ちの表現)
↓
感情を『言葉に表現』すること (名札付け)
・・・他者との共有・理解が可能となる
- ◎ ネガティブな感情を安全に自ら抱える
『チカラ』を育むことも大切

「1回の声かけが、人を変えることもある」(事例)

Aさんは居場所がなく、夜な夜な歩き回っていた。ある夜、疲れて自動販売機の前に座り込んでいた。朝4時ころ、ちょうど前を通りかかったお婆さんが「どうした?こんなところでどうしたんだ...?!」と

心配して声をかけた。Aさんは「まだ自分を心配してくれる人がいる。だからまだ自分は生きていていいんだ」と思われ、まわりに助けを求めることが出来るようになっていった。その後、心理カウ

ンセラーの先生と出会い、生き方を変えることになった。人は歩道橋の上・踏切の前で声をかけてもらい大切な命が救われることがある。そして心かよう声かけが命を救うことも・・・

おけまる食堂(子ども食堂)訪問

コロナ禍、思うように活動ができない「おけまる食堂」ですが、今回、活動拠点 COCOON を補導委員が訪問して、高校生ボランティアの皆さん・事務局の方々から直接話を聞く機会を得ました。センター補導として昨年度から継続する取組みです。

9月1日(木)食材配布活動会場にて

おけまる食堂

上田市常田にあるワーカーズコープCOCOONの中で2018年6月より運営され、食事の無償提供(毎週木曜)と学習支援(毎週火曜)を行い、子どもたちの居場所づくりに取り組んでいます。

長野大・信州大ほか、上田東高JRC班、ばんとりーソメヤPJ(上田染谷丘高)、上田西高、上田千曲高等、大学・高校生のボランティアにより、子どもたちの遊び相手や食事の配膳等の活動をとおして「こどもが『まん中』」の居場所づくりをしています。

助成金や地域から様々な支援を受けて運営されていて、社協の倉庫を借りて食料をストックしたり、香吃大食堂さんにボランティアで主菜を調理していただいたり…様々な協力の上に成立つ組織です。

スタッフ全員が、子どもたちのほんの小さな言葉や変化に注意を払って活動し、子どもの異変に気づいて支援に繋がったこともあるそうです。

感染警戒レベル3を食堂開店の基準としているため、この日は食材配布の活動を行っていました。



小林みゆきさん



こども食堂(おけまる食堂)・学習支援(おけまる)事務局代表として、おけまる食堂の運営を担って4年です。単に食事の提供だけではなく、ストレスを抱える子どもたちに対する「心のケア」のための「居場所」づくりを念頭に活動しています。

ここに集まるすべての人の安心・笑顔と成長を願い青少年に接しています。特に、ボランティアの学生には、『やってあげた』…嬉しさは間違い!...『必要とされる存在』を意識し『共に過ごす時間』を大切に、スタッフとして自ら考えて行動するよう取組みをアドバイスをしています。

参加者の感想から

- 小4の頃から現在まで通っているという高1の男子に話を聞きました。他校生や異年齢の小中生らと交流できる「おけまる食堂」が心安らぐ居場所になっているとのこと。他の人と関わりを求める若者の素直で明るい生きる姿勢に心打たれました。若者たち(子ども、学生)をやさしい笑顔で包み込まれている代表小林さんの姿に感動しました。(特別補導委員)
- 「小さい頃から他人と話をすることが、苦手だったが、『おけまる食堂』でお手伝いをするようになって他人と会話することが楽しくなってきた」と話す男子高校生の姿から、ここでコミュニケーション能力を高めていることが分かった。(特別補導委員)
- 実際の現場で、講演会等では学べない具体的かつ実践的なことを知ることができた。高校生から直接話を聞くことで、身近な社会状況・実態を肌で感じ、また高校生が将来の目標に対して今の活動が活かされていることは頼もしく思いました。(長瀬)
- 貧困家庭や孤立した子どもがいるとメディア等の情報は見聞きしておりますが、実際のところ普段の自分の身の回りにおいて見えていない部分が多いことを改めて感じ、少年補導委員としても地域の状況を把握することで、子ども食堂をはじめ子どもの居場所づくり、また必要に応じ福祉行政に結び付けるサポートも必要であると感じました。(長瀬)
- 高校生ボランティアは21時まで活動する事があり、遅くなった時は親が迎えにきてくれる。家庭の理解がなければボランティア活動は困難と感じました。将来は福祉に関する仕事を目指したいとのこと。彼女たちに接して、大変頼もしく又親しみも感じ楽しい時間を過ごす事ができました。(丸子中央A)
- 一つ屋根の下に家族以外の色々な年齢の子どもから学生・大人までいて活動する事は、様々な刺激があって子どもの成長に良い体験が生まれる場であり、学びの場であると思いました。末永く続くことを願います。(西塩田)

11月は全国 子ども・若者育成支援強調月間 です

全県で 環境チェック調査

7月に続き、環境チェック調査を実施します。11月の活動では、前回の調査(チェックシート)に加え、有害図書販売・カラオケ店・漫画喫茶・インターネットカフェについて地域ごとの店舗状況を調査します。利用方法によっては青少年に有害となりうる環境の情報収集と把握が目的の活動です。

補導委員が直接店舗を訪問して、それぞれのお店が抱える課題や問題点、子どもたちを含め社会全体の利用の状況を聞き取り、青少年の健全育成活動を一緒に考える取組です。

設置者・利用者 それぞれの立場から子どもたちを取りまく環境について情報を共有する機会にしたいと考えます。

ご協力をよろしく申し上げます。

第5回 センター補導

10月21日(金)、少年育成センターでは「環境チェック調査」に先立ってカラオケ店・漫画喫茶・インターネットカフェ等複合する2店舗にセンター補導(補導委員の訪問)活動を行いました。

両店舗とも広域にチェーン店展開し、本部や業界の自主規制に則り、青少年への対応に協力していただいています。

会員登録システムや身分証明書提示による厳格な本人(年齢)確認と法令順守の店舗運営を知ることができました。



「店内(通路等)ではまわりの人への思いやりとマスクの着用をお願いしたい」

「貸出物品を大切に扱ってほしい」

等、若いみなさんへの要望がありました。

初めて訪問したひとつの店舗では、「青少年健全育成協力店」(県民運動)への協力を新たに快諾していただきました。

大人のみなさんへ
地域社会からみんなで
青少年をはぐくみましょう



駅前交番と
協調・連携した活動です



11・1 上田駅前啓発活動

11月1日(火)「青少年は地域社会からはぐくむ」視点から家庭、学校、地域住民、企業、団体及び行政が一体となり健全育成の意識の高揚を図る啓発活動を強調月間初日に上田駅前で行いました。上田警察署・駅前交番・上田地域振興局の協力をいただき、少年補導委員会と少年育成センターが企画しました。強調月間にとまない県下各地域で一斉に展開されています。

「伸びよう 伸ばそう 青少年」

「信州あいさつ運動」リーフレット入りのポケットティッシュを配り、

大人のみなさんには「大人の責任」を、青少年には「ルールを守った生活」「電話相談窓口」をあいさつを交えて啓発しました。

駅前パレオビル2階テラス通路南面に、活動を

広く知らせる横断幕が一月間掲示されます。



大人が変われば
子どもも変わる

保護司会の取組 研修

10月6日(木)地区会長・班長会に先立ち、上田地区保護司会長 西澤様から「保護司の取組」について講演をいただきました。「保護観察」活動と社会復帰の「環境調整」「犯罪予防」へ向けた取組等々 民間ボランティア(非常勤の国家公務員)という日本独特のしくみを学びました。

街頭啓発・地域パトロールの活動に補導委員会との共通点を感じます。検挙者数 減少中の昨今は、協力雇用主・更生保護協会 等の協力を得ながら、再犯防止の推進と犯罪予防の地域ネットワークづくりが大きな課題とのお話でした。



この計画はあくまでも目安です。
各班の実情にあわせて、計画をよろしく願います。

令和4年度 12月～1月 街頭補導計画 上田市少年補導委員会

| 日 | 曜 | 12月活動班 | 日 | 曜 | (令和5年)1月活動班 |
|----|---|----------------|----|---|----------------------|
| 1 | 木 | 東部A 東部B | 1 | 日 | |
| 2 | 金 | 神川A 神川B | 2 | 月 | |
| 3 | 土 | 南部A 南部B | 3 | 火 | |
| 4 | 日 | 中央A 中央B | 4 | 水 | |
| 5 | 月 | | 5 | 木 | |
| 6 | 火 | 塩尻 | 6 | 金 | 東部A 東部B |
| 7 | 水 | 北部A 北部B | 7 | 土 | 神川A 神川B |
| 8 | 木 | 西部A | 8 | 日 | 南部A 南部B 【上田市二十歳を祝う式】 |
| 9 | 金 | 西部B 西部C | 9 | 月 | |
| 10 | 土 | 城下A 城下B | 10 | 火 | 中央A 中央B |
| 11 | 日 | 神科A 神科B | 11 | 水 | 塩尻 |
| 12 | 月 | | 12 | 木 | 北部A 北部B |
| 13 | 火 | 豊殿 東塩田 | 13 | 金 | 西部A 西部B 西部C |
| 14 | 水 | 中塩田A 中塩田B | 14 | 土 | 城下A 城下B |
| 15 | 木 | 西塩田 別所温泉 | 15 | 日 | 神科A 神科B 【家庭の日】 |
| 16 | 金 | 川辺泉田A 川辺泉田B | 16 | 月 | 豊殿 東塩田 |
| 17 | 土 | 川辺泉田C | 17 | 火 | |
| 18 | 日 | 川西A 川西B 【家庭の日】 | 18 | 水 | 中塩田A 中塩田B |
| 19 | 月 | | 19 | 木 | 西塩田 |
| 20 | 火 | 内村 | 20 | 金 | 別所温泉 |
| 21 | 水 | 丸子中央A 丸子中央B | 21 | 土 | 川辺泉田A |
| 22 | 木 | 依田 長瀬 塩川 | 22 | 日 | 川辺泉田B |
| 23 | 金 | 長 傍陽 本原 | 23 | 月 | |
| 24 | 土 | 武石 | 24 | 火 | 川辺泉田C |
| 25 | 日 | | 25 | 水 | 川西A 川西B |
| 26 | 月 | | 26 | 木 | 内村 |
| 27 | 火 | | 27 | 金 | 丸子中央A 丸子中央B |
| 28 | 水 | | 28 | 土 | 依田 長瀬 塩川 |
| 29 | 木 | | 29 | 日 | 長 傍陽 本原 |
| 30 | 金 | | 30 | 月 | |
| 31 | 土 | | 31 | 火 | 武石 |

事務局からのお知らせ

12月は…合同巡回活動 月間②

11月は…

利用方法によっては有害な環境となりうる
「有害図書等取扱店舗」「カラオケ店」
「漫画喫茶」「インターネットカフェ」等を訪問します。
御協力をよろしく願います。

補導委員会の活動は、
「参加・協力される方の意向を尊重し、十分な感染予防対策の上、無理のない範囲で」活動をよろしく願います。



※ 補導活動の報告書は 活動後1週間以内を目途に御提出ください。

